

## 事業者レベル 1.5PRA モデル(高浜 3,4 号)の適切性の確認のための個別質問事項 (その1)

### 1. 概要

事業者は、リスク情報活用に向け継続的に PRA の高度化を進めていく計画を示している<sup>1</sup>。また、新検査制度で活用する PRA モデルについては、事業者の PRA モデルの整備状況等を踏まえて、原子力規制庁が原子力規制検査におけるリスク評価に活用可能な PRA モデルの品質に関する適切性の考え方を整理する方針<sup>2</sup>としている。この際、規制庁が確認を実施した先行プラントと類似の場合には、その差分を確認することで効率的な確認を行うこととしている。

本文書は、このような背景を踏まえて、新検査制度に活用される予定の高浜 3,4 号の PRA モデルのレベル 1.5PRA に関する内容を原子力規制庁が確認するため、事業者から貸与を受けた資料に関して質問事項をまとめたもののうち、先行プラントである伊方 3 号機とのモデルの差分について、高浜 3,4 号に対する第一回の個別質問をとりまとめたものである。

### 2. レベル 1.5 PRA モデルの確認項目と質問事項

#### (1) レベル 1.5 PRA モデルの確認項目

原子力規制庁が、事業者 PRA モデルの適切性を確認するための確認項目を添付 1 に示す。

#### (2) 質問事項

個別質問事項 (その 1) を添付 2 に示す。

本質問事項は、添付 1 に示した確認項目のうち 1. 評価対象、2. 評価に必要な情報の収集及び分析 及び 3. 格納容器機能喪失頻度評価のうち (6) システム信頼性の評価及び (8) 人的過誤の評価を除く項目の質問事項である。

---

<sup>1</sup> 第 2 2 回検査見直しに関するワーキンググループ資料 3  
<https://www.nsr.go.jp/data/000253833.pdf>

<sup>2</sup> 第 2 2 回検査見直しに関するワーキンググループ資料 4  
<https://www.nsr.go.jp/data/000253834.pdf>

## 事業者 PRA モデルの適切性の確認項目（格納容器機能喪失頻度）

## 事業者 PRA モデルの適切性の確認項目（レベル 1.5 PRA）

1. 評価対象
  - (1) ピアレビューについて
2. 評価に必要な情報の収集及び分析
  - (1) 設計情報及び運転管理情報
3. 格納容器機能喪失頻度評価
  - (1) プラント損傷状態の分類及び発生頻度の定量化
    - ① プラント損傷状態の分類
    - ② プラント損傷状態の設定
    - ③ プラント損傷状態ごとの炉心損傷頻度の定量化
  - (2) 格納容器機能喪失モードの設定
    - ① 格納容器負荷特性の同定
    - ② 格納容器耐力の設定
    - ③ 格納容器機能喪失モードの設定
  - (3) 成功基準の設定
    - ① 成功状態の定義
    - ② 格納容器機能喪失の防止及び緩和機能の分析
    - ③ 成功基準の設定
    - ④ 緩和操作開始までの余裕時間（許容時間）
    - ⑤ 緩和機能の継続を必要とする時間（使命時間）
  - (4) 事故シーケンスの分析
    - ① 事故シーケンスの特徴分析
    - ② イベントツリーの作成上の仮定とその根拠
    - ③ イベントツリーの構造
    - ④ 事故シーケンスの展開
  - (5) 事故進展解析
    - ① 解析コードの選定
    - ② 代表事故シーケンスの選定
    - ③ 代表事故シーケンスの解析
  - (6) システム信頼性の評価
    - ① 緩和設備の分析
    - ② 緩和設備に要求される機能の喪失原因
    - ③ 緩和設備の故障

個別質問その1

別途質問

事業者 PRA モデルの適切性の確認項目（レベル1． 5 PRA ）（続き）

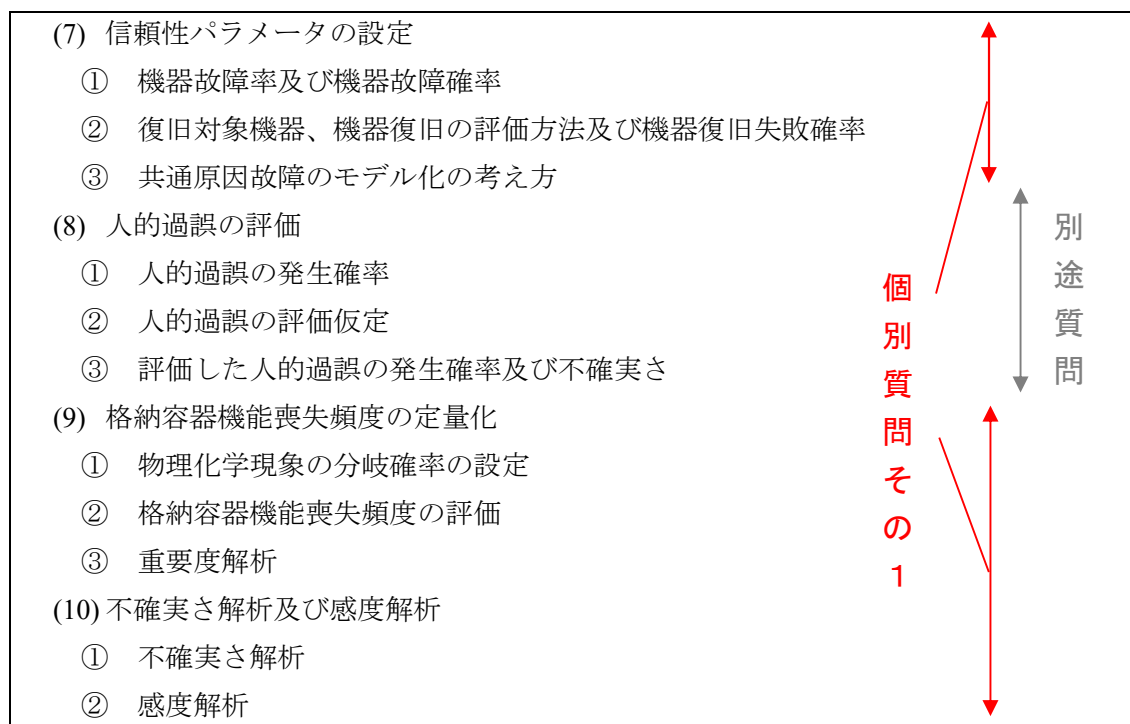


表 1 事業者 PRA モデルの確認のための質問項目（格納容器機能喪失頻度）

事業者 PRA モデルの適切性の確認項目	確認事項 (高浜 3,4 号 2021 年 2 月データ)	質問管理 NO.
1. 評価対象		
(1) ピアレビューについて		
・ PRA モデルへピアレビューの指摘 (Finding) が反映されていること。	ピアレビューの反映状況を提示してください。	(高浜)-1.1
2. 評価に必要な情報の収集及び分析		
(1) 設計情報及び運転管理情報		
・ 使用した設計情報、運転情報等は、最新のものであること。	プラント職員への聞き取りについて、人的過誤のみの調査を行う理由を説明してください。	(高浜)-2.1
・ 使用した設計情報、運転情報等は、最新のものであること。	プラントの運転炉年と機器故障履歴について、具体的に説明してください。	(高浜)-2.2
・ 使用した設計情報、運転情報等は、最新のものであること。	伊方 3 号と同様のソースターム解析結果を用いてよい理由を説明してください。	(高浜)-2.3
3. 格納容器機能喪失頻度評価		
(1) プラント損傷状態の分類及び発生頻度の定量化		
・ 起因事象、原子炉容器内熱水力挙動等の類似性の観点からプラント損傷状態が分類されていること。	起因事象の統合に伴うレベル 1. 5 PRA への影響について分析した結果を説明してください。	(高浜)-3.(1).1
(個別の PDS)	PDS の個別結果のうち、発生頻度が大きな割合を占める PDS について説明してください。	(高浜)-3.(1).2
(2) 格納容器機能喪失モードの設定		
・ プラントに固有の設計に基づいて、格納容器機能維持限界温度、限界圧力等の格納容器の耐力が同定されていること。	プラント固有の条件について説明してください。	(高浜)-3.(2).1
(3) 成功基準の設定		
-	なし	-

事業者 PRA モデルの適切性の確認項目	確認事項 (高浜 3,4 号 2021 年 2 月データ)	質問 管理 NO.
<b>(4) 事故シーケンスの分析</b>		
・ イベントツリー毎のロジックに間違いがないこと。	当該プラントのレベル 1 PRA との従属性について、説明してください。	(高浜)- 3.(4).1
(個別事項)	恒設代替低圧注水ポンプの液相蓄熱への考慮の仕方について、説明してください。	(高浜)- 3.(4).2
<b>(5) 事故進展解析</b>		
・ 評価対象プラントに対応した条件が用いられていること。	注水機能、除熱機能等の緩和効果の違いによる事故進展解析の結果への影響を説明してください。	(高浜)- 3.(5).1
・ 選定された代表事故シーケンスに対して、格納容器イベントツリーの分岐確率の設定等を実施するために必要なパラメータが全て取得されていること。	代表的な 3 ループの事故進展解析との結果整理の違いについて説明してください。	(高浜)- 3.(5).2
<b>(7) 信頼性パラメータの設定</b>		
・ プラント固有の機器故障率を用いていること。	プラント固有の機器故障率の反映状況について、説明してください。	(高浜)- 3.(7).1
<b>(9) 格納容器機能喪失頻度の定量化</b>		
(個別設定) 炉心への注水	炉心への注水で考慮している手段の一覧を説明してください。	(高浜)- 3.(9).1
・ プラント損傷状態ごと、格納容器機能喪失モードごと等の格納容器機能喪失頻度を算出していること。	条件付き格納容器機能喪失確率の高い PDS について、説明してください。	(高浜)- 3.(9).2
・ プラント損傷状態ごと、格納容器機能喪失モードごと等の格納容器機能喪失頻度を算出していること。	寄与割合の大きな格納容器機能喪失モードについて、説明してください。	(高浜)- 3.(9).3